阪神大震災10年

「がんばろうKOBE」で一体

震災の年に八・リーグを制し、優勝の歓喜となったオリックス。当時指揮を執り、今季チームに戻った仰木彬監督（66）は今、「震災のことを忘れてはいかんぞ」と当時に比べれば、みんな元気にはなってきている」と感じている。

あ　ビルが倒壊し、粉じんが上がる神戸の街が映し出される。テレビで惨状を知った、選手、球団職員は無事かどうか連絡が取れず、やきもきした。その日の午後、球団から連絡や激励や電話には酒が飲めなかったが、震災から約1週間後の合宿キャンプ。酒が飲めるようになったと分かり、ほっとした。「オリックスの街の柔わり屋でした」と野球ができるのは当たり前ではないと感じた。

選　手、球団職員合わせ入の自宅が、倒壊または傾いたりした。選手は、「震災の被害者への思いがあるプレーをしよう」と話したが、それは言わずもがな。被災した選手がいたし、チームには自分と一体感が生まれていた。

―仰木　彬さん―

オリックス監督

復　興はかならず、交通網が寸断され中、誰で初めて言われた1月4日のオープン戦には一万人の観客が集まった。選目、監督には「ファンなる多くの激励の手紙が届いた。「がんばろうKOBE」のワッペンをユニホームの右袖に縫う、シーズンでは西武首脳の下馬評を覆しリーグ優勝。仰木監督は「あの時はすごい熱気で、人間は強力、生きる力を持っていると感じた。我々はそれに応える使命を持ったし、市民の皆さんから感謝をうけとめられた」と振り返る。

あれから10年。再びオリックスのユニホームに袖を通した近鉄との球団合併に伴う新たな事情を抱える「震災に感謝を伝えるためにはの時の熱気を取り戻すようにやらないといけない」。震災を風化させる使命感を感じている。【田中義郎】

オリックスのユニホームの神戸大の「がんばろうKOBE」＝2004年6月

阪神大震災10年

「官民連携」作りを目指す

「何かあった時、言葉が対等なパートナーとして連携しなければ、悪用のボランティアはうまくいかない」。NPOふくおか前理事の角正信さん（57）は、阪神大震災の活動を通じ、そう痛感した。

大　だった当時、東大阪市の自宅で震災に遭遇。被害の大きかった兵庫県西宮市の妻の実家が心配で、車に乗り込んだ。「車に何かを積んでいこう」と声をかけると「何もない」と言われ、「何かできることはないか」と声をかけて回る日々だった。

と　ころが、殺到したボランティアも、長期化すれば疲労が溜まってしまうこと、おしゃべりに夢中な学ボランティアを被災者が感情的にけるようになったことなどを目の当たりにするようになった。

加え、福岡市に戻り、体験を生かして「災害ボランティア活動マニュアル」を作成。思いを伝えるため、自費で約500冊を配った。

10年、福岡市に拠点を置く「災害ボランティアネットワーク」を立ち上げ、「官民連携」はまだ実践作りの段階だと感じている。【安藤一成】

―角　正信さん―

NPOふくおか前理事

阪神大震災10年

最後の一人まで支えたい

関　西に暮らす県出身者は3万人といわれ、震災で2000人以上が犠牲になった。故郷に関する情報もいなかった。井上さんは自宅を開放して配り、月1度は自宅で交流会を開いた。

10　年たった今が、心の痛さが薄い。「ショックから回復できない人が少なくない。震災者が多く、現場にたどり着けない。震災はまだ終っていない」と実感する。

「どんなふうしゃるの？」。今日も各県に電話する。「震災の一人（が元気）でいてください」。【斎藤弥子】

―井上　順子さん―

支援組織「りんりん鹿児島会」設立者

被災地からの避難者を名古屋で支えた「りんりん」。全国規模は10年に活動を終え、今も続いているのは鹿児島会（世帯）だけだ。設立者の井上順子さん（50）＝鹿児島市＝は10年前に突然、十歳年下の夫を亡くした。「震災で多くの人が自分を見失った人が自分に重なったんです」

被災地からの避難者を名古屋で支えた「りんりん」。全国規模は10年に活動を終え、今も続いているのは鹿児島会（世帯）だけだ。設立者の井上順子さん（50）＝鹿児島市＝は10年前に突然、十歳年下の夫を亡くした。「震災で多くの人が自分を見失った人が自分に重なったんです」

新聞定価1ヵ月3,925円（本体3,738円）・1部売り（消費税込み）朝刊130円 夕刊50円

阪神大震災10年

自然への恐れ忘れてはならぬ

兵庫県立国際高校（芦屋南高校）の石碑＝兵庫県芦屋市で7日、関口純写す

震　災さんご「命の再生」に取り組んだ。昭和初期生「事件」のマグロ加工業者は「ご」と「ご」の組合。阪神大震災では、「ご」と「ご」の組合。阪神大震災では、「ご」と「ご」の組合。

油　漏れ出す臭いや煙に悩まされ、風の強さを肌で感じる。京屋本店の建物が水没被害のため、震災は「ご」と「ご」で、「ご」と「ご」で、「ご」と「ご」で、